

平成26年度
第2回北区まちづくり協議会全体会

会 議 録

日 時：平成26年11月6日（木）午後2時30分開会
場 所：札幌サンプラザ「玉葉の間」

1 開会

○司会（石山市民部長）

2 あいさつ

○座長（北連合町内会 宇野会長）

○阿部北区長

3 講義

9月11日に発生した大雨災害への対応について

○北区市民部総務企画課長 吉田博

前日からの避難勧告発令に至る経緯、全市的な被害の状況、今後に向けた課題等について説明を行った。

4 避難所運営ゲーム（HUG）の実施

○講師（有）インタラクティブ研究所 代表 安田睦子氏

冒頭、安田氏から避難所運営ゲームの持つ意味、ゲームの進め方、前提条件、検討課題になどについて説明した後、4班に分かれて実際にゲームを実施した。ゲーム終了後、避難所使用の検討課題とした「暖房について」「トイレの使い方」「ペットの扱い」の3点について、各班から発表を行った。

《各班の検討結果》

(1) 暖房について（採暖室の使い方）

- ・ 学校の教室を確保し、そこにストーブを置き採暖室を設置する。
- ・ 避難者をグループに分けて順番に利用するなどのルールを定める必要がある。
- ・ 厳寒期の想定なので、体調のすぐれない方、乳幼児や高齢者、障がいのある方などには優先して採暖室を使っていただく。

（講師から）

採暖室については時間交代などのルールを決めるという検討結果になることが多い。そういった中で、乳幼児や高齢者、障害がある方を優先するという意見が出てくる。今回の設定ではポータブルストーブ2個があるので、1個を別の部屋に移してもう一つ採暖室をつくれないうかと言う意見が出ることもある。ただし、使える教室というのは限られるので、学校の管理者と相談しながら運営するというのも大事になってくる。

(2) トイレの使い方

- ・ 水道が断水して、下水道が使えないため学校のトイレは使用しない。
- ・ 男女別に簡易便座を設置する。
- ・ 屋外のプールなどに男女別の簡易トイレを設置する。
- ・ 学校のトイレは使わないが、簡易トイレを学校のトイレ室に設置する。
- ・ 6個の簡易トイレを女性4個、男性2個に分けて設置する。
- ・ 後処理については、基本的には自分で処理するようにする。地中に埋めたり、定め

られた場所に置くようにする。

(講師から)

今回の設定のように上下水道が使えないという状況でトイレを使うと、すぐに詰まる。一度詰まると、上下水道が回復しても詰まりが解消しない。そういったことから、学校のトイレは使用せず、簡易トイレを学校のトイレや別に定めた場所に持ち込んで使うことになる。

(3) ペットの扱い

- ・ ペットについては、自分の子どものように大事にしている人もいるが、大勢があつまると避難場所の室内には入れない。
- ・ 屋外に場所を指定したり、空いている小屋や温室などを指定し、そこで管理する。

(講師から)

ペットの扱いは、アレルギーや鳴き声などいろいろな問題があるので、体育館などの生活空間には入れないほうが良い。ただし、外に置くか別の教室にするか、ふん尿や餌の問題をどうするかなど、HUGの研修ではいつも悩ましい問題となる。

《講師の総括》

HUGというのは避難所を開設・運営するという体験である。実際の場面では、もっと大勢の避難者が集まり、いろいろなことが起こる。その時に的確な判断をするためには、普段からどういった問題が起きるのかというのを考えておくと実際に避難所を立ち上げるのも早くなる。

東日本大震災の際、仙台では、町内会がしっかりしているところは、町内会同士が協力して、すぐに避難所運営を始めたが、そうではないところでは、避難所生活のルールが決まらず、避難者が大変な思いをしたと聞いている。

そういったことから、こういった避難所運営ということについて、普段から考えておくと、いざというときに役に立つと思う。

5 平成27年度の北区まちづくり協議会のテーマについて

○座長（北連合町内会 宇野会長）

平成27年度のまちづくり協議会のテーマについては、引き続き防災としつつ、風水害や雪害などについてもテーマに加えていきたい。意見交換テーマについては、後日検討し運営委員会で決めていきたい。

6 閉会

○司会（石山市民部長）